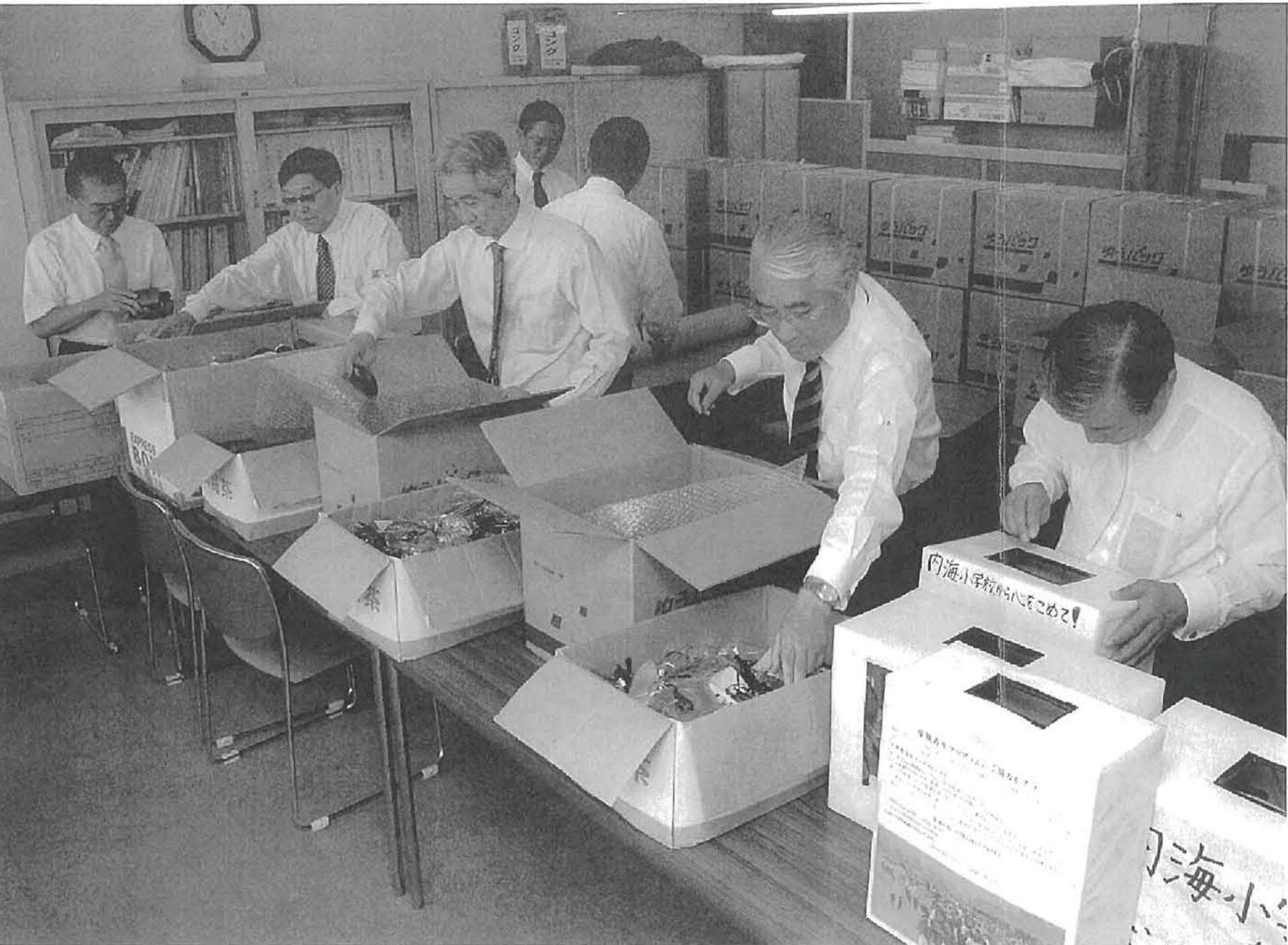


# 再生眼鏡が途上国の人々に可能性の扉を開く



落ち着きがなく勉強に遅れていた子が、眼鏡を手にした日から見違えるように勉強に励み、今では医師になることを夢見ている。その子にとつて眼鏡は人生を変える贈り物だ。ライオンズ眼鏡リサイクル・プログラムは不要になつた眼鏡を再生し、発展途上国の必要とする人々の元へ届ける活動だ。ここでは日本での取り組みの事例と共に、オーストラリアのリサイクル・センターの活動ぶりをリポートする。

(取材／河村智子)

世界保健機関（WHO）によると、屈折障害（近視、遠視、乱視）を患有する人は世界で1億5300万人に上る。その大半は眼鏡で容易に矯正出来るが、それを手に入れるのは容易なことでない。眼鏡がないために学習が遅れたり、

人は世界で1億5300万人に上る。その大半は眼鏡で容易に矯正出来るが、それを手に入れるのは容易なことでない。眼鏡がないために学習が遅れたり、

仕事に就くことが出来なかつたり。そんな不自由な生活を送る人たちに、不要になった眼鏡を届ける活動がライオンズ眼鏡リサイクル・プログラムだ。

このプログラム、日本のクラブにはあまり浸透していないが、アメリカを始め海外の先進国ではボピュラーな活動となつていて。クラブは町の眼鏡店やスーパーに回収ボックスを置くなどして中古の眼鏡を回収し、最寄りのライオンズ眼鏡リサイクル・センターへ送る。センターはアメリカ国内に11カ所、オーストラリア、カナダ、フランス

も、大会サービス・センター内に中古眼鏡の収集所が設けられ、3日間で6万1463個が集まつた。大会登録者約1万人として、一人当たり6個を持ち寄つた計算になる。この眼鏡収集については大会の半年余り前から、国際理事会大会委員会に所属してた稻森新治国際理事（当時）が日本のライオンズの協力を強く求めていた。

その呼び掛けを受けて、334・A地区（愛知）は地区年次大会で中古眼鏡の収集を行うことを決定。これに地区内クラブの7割を超える87クラブが応え、予想を大きく上回る1万5千個もの眼鏡が集まつた。中には地元小学校に協力を求めたクラブもあり、子どもたちの手製の収集ボックスに詰まつた眼鏡も寄せられた。地区はこれをミネアボリスへ送るつもりだったが、ここで予想外の事態が持ち上がつた。国際本部によると、大会会場では1万5千個を

まとめて受け入れるのは難しいという。そこで代わりの送付先として提示されたのが、ライオンズ・リサイクル・フロー・サイト・オーストラリアだ。

334・A地区からの大量送付の中に入り、これを機に日本のライオンズとの連携を強めたいとの希望がセンターから伝えられ、ミネアボリス国際大会でセンター所長を務めるジョン・レオナルドとジョン・ホーリーの打ち合わせが持たれることになつた。その席で、日本のクラブが眼鏡を送る際の注意点（18頁）が確認され、ジョン・レオナルドからはセンター運営について詳しい紹介があつた。

## 行政との連携で高い処理能力を持つセンター

オーストラリアのライオンズが運営するリサイクル・センターは国内外から年間25万個の眼鏡を収集。日本からオーストラリア東部ブリスベン周辺にある四つの施設で洗浄、測定され、オーバーの確保によって維持されている。センターに寄せられた大量の眼鏡は、種類や度数ごとに分類、保管される。

ス、イタリア、南アフリカ、スペインに1カ所ずつ、計17カ所。収集した眼鏡を再生して、発展途上国のクリニックや、眼鏡配布の支援を行う派遣団に提供している。2008・09年度にセンターが収集した眼鏡は合計344万6963個、配布用に提供した眼鏡は120万5020個に上つた。

クラブ会員の皆様へ

We Serve

## 中古眼鏡回収ボックス (ライオンズクラブ公式用品)

## 眠っている眼鏡を 必要としている 人たちがいます

中古眼鏡回収アクティビティを、  
すぐにでもはじめられる公式回  
収ボックス。眼鏡店やスーパー  
店頭への設置に便利です。

### 存在感のあるデザイン

ライオンズ紋章や写真が印刷され  
たライオンズ公式デザイン。

### 省スペース

コンパクトなのでスペースに制限  
のある場所でも設置が可能。

### 余白には日本語を添えて

英語表記ですが、余白多く、日本  
語のキャッチコピーを添えてご使用  
いただけます。

品番

G-1174DS

単価

=US\$103.50

1セット 10箱入りです

※ 別途送料がかかります。

大きさ 幅30cm×奥行20cm×高20cm

### ご注文、お問い合わせ先

ライオンズクラブ国際協会日本事務所まで。

TEL : 03-3494-2931

FAX : 03-3494-2933

E-mail : [lcijapan@amber.plala.or.jp](mailto:lcijapan@amber.plala.or.jp)

クラブにはキャンペーンが終了するごとに下取りされた眼鏡が届き、10月から12月にかけて3回の発送作業を行つた。フレームが破損した眼鏡を取り除きながら段ボール箱に詰め込み、梱包していく。発送は船便の国際小包で14キログラムまで1個8150円。2回目のキャンペーンで集まつた1万4千個は25箱に詰め込まれ、発送された。

東京早稲田、東京三軒茶屋の両クラブには他にも同様の申し入れが寄せられており、企業とのコラボレーションは今後更に広がりそうだ。

下取りキャンペーんは3回にわたり実施。店頭や新聞広告、ホームページの案内には、「お客様が提供された眼鏡は『ライオンズ眼鏡再生センター』を通じて海外の眼鏡を必要とする人に配布されます」という文言が謳われた。

広がる企業とのコラボ  
レーション

正や社会復帰の支援の場にもなつてい  
る。行政との連携の他、オーストラリ  
ア郵便公社の協力や企業の資金援助を  
受け、センターの運営は順調だ。

このうち二つは女性受刑者の社会復帰センター内にあり、平日はほぼフル稼働。他の二つは公的機関から安価に借り受けた施設で、週3～5日稼動する。ここで作業に当たるのは、主に刑事罰として社会奉仕を科されたり、就労経験や地域貢献プロジェクトへの参加を義務づけられた失業者の人たちだ。国や州政府との連携でそうした人たちを受け入れ、ライオンズは作業の監督役を務める。これによりセンターは眼鏡再生という本来の目的だけでなく、更



受け、センターの運営は順調だ。

四つの施設で再生された眼鏡は、ライオンズや他の人道的な奉仕団体の要請を受けて発展途上国での眼鏡配布プロジェクトに提供されている。現在、オーストラリアのライオンズはアフリカやティモールでのプロジェクトを計画中。センターではその実現に向けて、年間50万個の眼鏡収集を目指していると言ふ。

広がる企業とのコラボ  
レーション

ミネアポリスでの打ち合わせを経て、A地区が収集した1万5千の眼鏡

ラブが集めた眼鏡は、  
全国に約90店舗を展開する眼鏡販売会  
社ZOFFから提供されたものだ。

は24個の段ボールに梱包されて、8月末に発送された。処理能力の高さには定評のあるオーストラリアのリサイクル・センターだが、昨年秋から年末にかけては目の回る忙しさを経験したに違いない。

334　A地区に統いて、東京三軒茶屋ライオンズクラブからも10月に7千、11月に1万4千、12月に7200の眼鏡が届けられた。同ア

## 中古眼鏡収集の注意事項

## ～リサイクル・フォー・サイト・オーストラリアの場合～

## ○眼鏡の種類について

視力矯正用の眼鏡の他、老眼鏡、サングラスを収集している。特に子ども用眼鏡は不足しがち。日本からの眼鏡は大人用でも小振りな物が多いので、子ども用として利用出来る場合もある。

## ○眼鏡の質について

フレームが壊れていなければ古くても再生可能。日本から届く眼鏡はどれも状態が良く、リサイクルする上で何の問題もない。

### ○カンターハの連絡について

眼鏡を発送する前に、個数や発送時期をあらかじめ連絡して受け入れの可否を確認すること

### ○細胞について

日本からの眼鏡は個々にパッキンくるむなど丁寧に梱包されている場合が多い。作業の手間を省くためにも梱包は簡単に。一段ずつ新聞紙を挟んで重ねる程度でも特に支障はない。

### ○問題について

中古眼鏡に関税を課されることはない。送り状の品目に  
中古(USED)であることを明記

中古 (USED) である

再生した眼鏡はライオンズやその他組織が行う配布プロジェクトに提供し、配布される。もし自分たちが集めた眼鏡を特定の国に寄贈したいとの希望があれば応じることも出来る。

名古屋と東京で眼鏡の梱包作業を取材し、その数の多さに驚いた。日本中でいったいどれだけの眼鏡が使われず、に放置され、また捨てられていることだろう。黙々と詰め込み作業を続けるメンバーからは時折、「これなんか、かっこいいよね……」と声が上がった。集まつた眼鏡の中には使い古した物や明らかに流行遅れのデザインの物もあるが、ほとんどは新しくまだ十分に使えるものだ。その捨てられるはずだった眼鏡が、どこかで誰かの人生を変えような贈り物となる。それがライオズ眼鏡リサイクル・プログラムなのだ。

● 同プログラムの情報と世界17のリサイクル・センターの連絡先は、公式ウェブサイト([www.lionsclubs.org](http://www.lionsclubs.org))を参照。

わせが寄せられるようになつた。  
ZOFFもその一つ。下取りキャンペー  
ンで集まつた眼鏡の活用を検討す  
るうちライオンズの眼鏡リサイクル・  
プログラムを知り、330・A地区に寄贈  
を申し入れてきた。その対応を引き受け  
たのが、東京三軒茶屋ライオンズ俱乐  
部はたくさんの眼鏡が集まるこ  
を見込んで、オーストラリアのリサイ  
クル・センターに大量受け入れの可否  
を確認。了解を受けた上で対応を協議す  
し、国内の送料はもちろん、オースト  
ラリアへの送料もZOFF側が負担す  
ることで合意した。